

あした 未来へつなぐ

【節電への取り組み】

ひとりでも多くの人の役に立つために、この北海道で地域と人のために私たちができること。JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。「未来(あした)へつなぐ」ために。

文=本間 吾里砂



2013年10月から12月までに投入された新型電車(733系)は、室内灯にLEDを採用。主に札幌圏内を走っている。

公共交通機関として 安全・安定輸送を確保し、 これまで以上の節電を目指すJR北海道

この冬、北海道では十月九日～三月七日

の平日午後四時～九時において、六%以上の節電を求められています。それを受けて、JR北海道でもさまざまな側面から節電対策を展開。ただし、輸送業務については、お客さまの安全

と利便に配慮し、列車本数を削減することなく、通常通りの運行としています。

今シーズンの目標は、十二月一日～三月三十一日の期間中、昨年の使用電力量を基準とし、その水準以下に抑えること、そして、電力需給ひっ迫時は追加的な節電を行うことの二つ。まず新しく始めたのが、昨年札幌圏に投入した新型電車(七三三系)は二十一両すべてにLED室内灯を採用しています。また、継続的に取り組んでいる駅のLED化も、たとえば新千歳空港駅では、待合室に続き、窓口カウンター付近をはじめ、さらに範囲を拡大。その他の駅についても、順にLED



札幌駅の自動券売機。利用が少ない時間帯は一部を停止して使用電力を抑制。

D化を進めています。一方、自動券売機が三台以上ある駅では、ご利用の少ない時間帯に一部の券売機を停止。そのほか、社員に生活の中での節電を呼びかけて、オール北海道での節電への参画意識を高めています。続いて、電力需給ひっ迫時は、苗穂工場で使用する電力の一部と、オフィス内のさらなる減灯、OA機器の停止により対応することになっています。

今シーズンは、昨シーズンより1%少ない節電要請となっていますが、JR北海道ではその数値に甘んじることなく、節電要請期間以外の取り組みも強化しています。駅では、コンコースや

ホームの照明の減灯、一部の電車について室内灯の減灯を実施。オフィスでも、照明の減灯や執務室等のLED化のほか、OA機器等における電源のこまめな入切を徹底するとともに、ノートパソコンの電源管理機能なども活用しています。

以前からウォームビズをはじめ、省エネ対策に力を入れてきたこともあつて、社内での節電はすでに恒常化しており、十二月現在で目標数値を堅持。JR北海道は、これまでの積み重ねと日々の努力により、節電に大きく貢献しています。



電力需給ひっ迫時は苗穂工場でのブレーキパッドの製造を一時停止。